

タブノキ (クスノキ科)



日本の照葉樹林を代表する樹種のひとつ。潮風につよく海辺でよく育つことから「共生の森」でも植栽している。

葉は、マテバシイに似ているが、ちぎるとクスノキ系の香りがすることと大きな芽でマテバシイと区別できる。材は船材や家具、染料などに。樹皮は線香に使われてきた。

「共生の森」ではタブノキやクスを植えているからか、それを餌とするアオスジアゲハが多く見られる。大阪では公園や街路樹としても植えられている。



松虫通

見かけた植物・生き物



センダン



ナンキンハゼ



シナサワグルミ



アキニレ



ハゼノキ



アオギリ

冬芽 いろいろな表情をしている



オニグルミ ヒツジの王様系

シナサワグルミ



クロコガネ

イラガのマユ

ミノムシ



スイセン



ハラン



アロエ



ヤブツバキ



ヒメオドリコソウ



U ポンド (自然の遷移に任せるエリア)

落葉樹がすっかり葉を落としていた

ホトケノザ (シソ科)



「共生の森」で春、最初に咲き始める草花のひとつ。草を刈り込んだ場所などに生えている。



日本、東アジア、欧州、北アメリカと広い範囲に分布している。日本には古い時代に渡ってきた帰化植物といわれる。

ホトケノザは二種類の花を咲かせる。虫によって受粉される虫媒花と蕾のまま結実する閉鎖花。虫がいなくても種子をつくれる戦略をとっている。

名前の由来は葉の形を仏像の蓮華座にみたてたもの。春の七草のホトケノザは、コオニタビラコ(キク科)のこと。

見かけた植物・生き物



ウメ



スイセン



ナワシログミ



ナルトサワギク



コセンダングサ



ワシントンヤシ

シュレーゲルアオガエル



植栽中に冬眠中の「シュレーゲルアオガエル」が出てきた。「共生の森」で2種類目のカエル。これまでに見かけたカエルは「ヌマガエル」。



タヌキ?の足跡



何か掘り返した跡

2月26日 植栽の状況



サークル間を広くとり植栽 直径3m 15本ずつ植栽



マルチングを厚くし、防草効果、保水効果を期待



ヤブニッケイ ヤマモモ



植樹の様子

22種類 900本の苗木を植栽

今年度も20×20mに直径3mのサークルを5個設定。それぞれに15本ずつ苗木を植栽。サークルは全部で60箇所。サークル植えをするのは下刈の労力を少なくするのが目的。

植栽樹種

アキニレ・エノキ・クスノキ・クヌギ・クロガネモチ・クロマツ・ケヤキ・ネムノキ・ハンノキ・ヤブニッケイ・ヤマザクラ・ヤマモモ・アオキ・ウツギ・サザンカ・タニウツギ・トベラ・ナワシログミ・ネズミモチ・バギ・ヒサカキ・マサキ

ヒメオドリコソウ (シソ科)



原産地はヨーロッパ。明治時代に東京に入り全国に分布を広げたとのこと。日本にもともと自生することから「オドリコソウ」よりも小さいことから「ヒメオドリコソウ」。



ヒメオドリコソウは「共生の森」で花の少ないこの季節にあっちこちで踊っている。

同じ時季に見かける大きさや花がよく似た感じのホトケノザも同じ仲間です。シソ科オドリコソウ属。

見かけた植物・生き物



セイヨウカラシナ



ウメ



ノビル



道ばたにはえたアカメガシワ



クズに覆われた箇所 冬はクズのツルが目立つ

今年は例年にくらべ花が咲き始めるのが遅い

タヌキのため糞



Z池、南側の車道上

センダンなどの木の实が見られる

道路の真ん中や、林の中、草むらの中などにタヌキのため糞がある。この季節のフンには、センダンなどの木の实が多く含まれている。



ため糞のあった竹林にカメラを設置



表面

裏面

ため糞のあった竹林に固定カメラを設置。カメラはデジタルカメラ。撮影時刻を設定したり、動画を撮ったりできる。温度に反応するとのこと、風に揺られた葉っぱに反応して撮影してしまうといったこともないとのこと。

3月18日の状況



N山から南側 J山方面

道の右側の大きな木は「センダン」、左はしに見えるのは「ワシントンヤシ」その他の常緑樹は「トウネズミモチ」いずれも鳥に運ばれてきて生えたもの。



南港発電所

IEWTC

植栽箇所

山側

19年11月に植栽。潮風の直接当たる海側の成長は悪い。9月末に草刈をしたため、背丈の低い草が生えていて、この時季にみどりが目立つ。

ヤエムグラ (アカネ科)



「共生の森」でこの時季いちばん勢いのある植物のひとつ。地味な花を咲かせている。草むらを歩いていると茎や葉にある小さなトゲでズボンなどにくっつくがそれほど気にはならない。葉は同じところから輪状に6~8枚程度生えているが、2枚が本来の葉で残りのものは托葉が変化したもの。

日本には麦などと共に渡来した史前帰化植物といわれる。

【百人一種】「八重むぐら しげれる宿のさびしきに人こそ見えぬ 秋は来にけり」 ヤエムグラは春に花を咲かせ、夏には枯れることから、本種ではなくカナムグラを指すといわれる。

見かけた植物・生き物



雌花 クロマツ 雄花



ウバメガシ マルバアオダモ



イモカタバミ ミヤコグサ アメリカフウロウ カリン



ツルニチニチソウ ナガミヒナゲシ タチイヌノフグリ キュウリグサ

カラスノエンドウ と アブラムシ と テントウムシ



アブラムシまみれ アブラムシを食べる ナミテントウ親子 アブラムシを守るアリに追い払われる

越冬組？



通常、成虫では越冬しないが羽の状態から越冬か？



ギンヤンマ

アオモンイトトンボ



ベニシジミ ツバメシジミ ヒメアカタテハ



モンシロチョウ イラガ(種不明) ヒメギス(幼体)



シロシヒゲナガバチ ナガメ(カメムシ) コアオハナムグリ



女王バチが1匹で巣作りを始めていた

植物や生き物がいっきに動き始めた

フタモンアシナガバチ

ヒルザキツクミソウ (アカバナ科)



「ヒルザキツクミソウ」。なんとなく納得のいかないネーミング。ツクミソウの名から受けるひっそりした印象とはかけ離れ、ヒルザキの名のとおり、太陽をさえぎるものがない、潮風の吹く「共生の森」で団で咲き誇っている。

ひとつの花は3日程度咲き続けるとのこと。

原産地は北アメリカで日本には観賞用として入ってきた。荒地や乾燥に強いようで、南港の閑散とした埋め立て地などでもたくさん咲いている。

見かけた植物・生き物



ハマヒルガオ

コヒルガオ



ヤマグワ

センダン



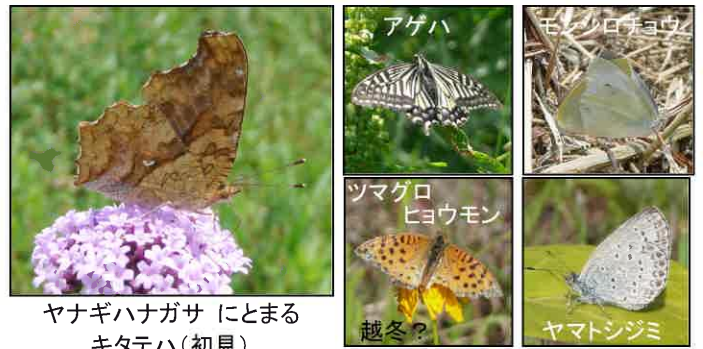
チガヤ

ナガバギシギシ



コバンソウ

イボタノキ(花)とコアオハナムグリ



ヤナギハナガサ にとまるキタテハ(初見)

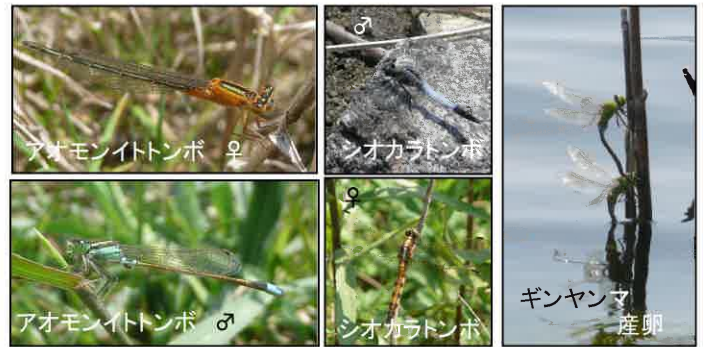
アゲハ

モンシロチョウ

ツマグロヒョウモン

越冬?

ヤマトシジミ



アオモンイトトンボ ♀

♂

シオカラトンボ

アオモンイトトンボ ♂

♀

シオカラトンボ

ギンヤンマ産卵



オオクビキレガイ

ツチイナゴ



コゴメバオトギリ

ニワゼキショウ

オヘビイチゴ



シロバナマンテマ

ナヨクサブジ

ノビル



イヌビワ

アカバナユウゲショウ

不明



H24・3月 植栽

マルチング箇所

3月植栽箇所のマルチングが今のところ効果を発揮していた。

シロツメクサ (マメ科)



多くの人が一度は探したことのある四つ葉のクローバ。シロツメクサは大阪では空き地や公園などどこにでも生えている。「共生の森」でも普通に見ることができる。原産地はヨーロッパ。日本国内には牧草や緑化用として広がった。

漢字で書くと「白詰草」。名前の由来は、江戸時代、オランダから長崎に運ばれたガラス製品の梱包に緩衝材として詰められていた枯れ草から。その枯れ草から芽がでて白い花が咲いた。白い花が咲く詰められていた草から「白詰草」

見かけた植物・生き物



ネムノキ



アメリカオアサミ と コアオハナムグリ



ヤマアワ



トウネズミモチ



アカメガシワ



ナンテン



マサキ



ドクダミ



ハナハマセンブリ



シナガワハギ

ハチにも敵が！



シオヤアブ に捕まってしまった フタモンアシナガバチ



チョウトンボ



ショウジョウトンボ



コフキトンボ



アキアカネ



キマダラセリ



モンキチョウ



セスジツユムシ



トノサマバッタ



セツカ



なに者かが吐いた  
ミミズのかたまり



ウスカワマイマイ？



オニグルミ

平成19年に植えたオニグルミに初めて実がなった。

城山高校で育てた苗木を植えたもの。

ヘクソカズラ (アカネ科)



「共生の森」でフェンスや植栽木に絡んだり、アスファルトの上に広がったりしている。この時季は花が咲いているぶん、同じように絡んで生きているヤブガラシより目につく。日本のほか東南アジアなどに分布する。

「ヘクソカズラ」。一度聞くと忘れない気の毒なその名前。万葉集に詠まれた時点ですでに「クソカズラ」。時代を下る間に「屁」まで付けられた。

葉や茎をもむと臭気がする。実際に手に取るとそこまで名づけるほど臭くはない。

見かけた植物・生き物



草刈り と ツバメ



草を刈ると、虫が驚いて飛び出す。それを狙って、ツバメがたくさんやってくる。



ヒメギス



マイコアカネ



ウスバキトンボ



コフキンボ



ショウジョウトンボ



シオカラトンボ



トノサマバッタ



チョウトンボ



ショウリョウバッタ



ツムムシ



マダラバッタ



コガネグモがトノサマバッタを捕まえた



セッカの作りかけの巣クモの巣を利用している



クマゼミ

センダンの木にたくさんクマゼミがいた。「共生の森」の木は若くこれまでまだ抜け殻は見つかっていない。今年は見つけられるか。

イチジク (クワ科)



「共生の森」には、種が土に混じっていたり、鳥に運ばれて来たりと自然に生えた木がたくさん見られる。このイチジクもそんな木のひとつ。他の自然生えの木と違うところは、イチジクの木は「共生の森」に一本しかないところ。土に枝か木が混じってやってきたと思われる。

イチジクはアラビア半島南部原産といわれ聖書にも出てくる古い果物。日本には江戸時代に中国を経由してやってきた。作物としてのイチジクは雌株だけで実を結ぶ。日本に雄株はない。したがって自然に種ができることがないので、今後、新たに植えない限り、「共生の森」にはこのイチジクしかない。

大阪には、羽曳野、藤井寺などのイチジクの産地がある。藤井寺ではイチジクのケーキなども売っている。

見かけた植物・生き物



キョウチクトウ



フヨウ



ザクロ



ヨウシュヤマゴボウ



ウイキョウ



強い日差しを避けるため、アカスジカメムシは花の陰に隠れていた  
巣を冷やす為か、フタモンアシナガバチが水辺に集まっていた

「共生の森」のセミ



クマゼミの抜け殻

「共生の森」の木は若くこれまで、抜け殻は見つかっていなかったがついにクマゼミの抜け殻が見つかった。抜け殻が見つかった木は、平成16年3月時点で樹高4m、野原の中にぽつんと植えられていた桃の木。



ツクツクボウシ  
初登場  
広い範囲にいた



クマゼミ  
今月は数が減って  
いた。(今月少数派)



アブラゼミ  
確認2年目  
ツクツクボウシに次ぐ数

「共生の森」のセミは現在 3種類



コガネグモ



オニグモ



ナガコガネグモ



キアゲハ



オオカマキリ



イチモンジセセリ  
一番多く見られたチョウ



マイコアカネ  
青い顔を舞妓の化粧に見立てた名

ちぬみ山から南の様子



日差しは強く、まだまだ暑い  
がエンマコオロギが鳴き始めていた



ザクロ (ザクロ科)



紅一点 の語源となったザクロ。

「万緑叢中紅一点」 中国、王安石の詩。

【一面緑の中に咲く一輪の紅い花】

ザクロは古くから栽培されており、その原産は中近東といわれている。日本へは、シルクロードを経て中国から平安時代に伝わったといわれる。

「共生の森」には3本ほど自然に生えたザクロの木がある。ザクロは実生でも生えるそうだが「共生の森」で実から種が落ちて自然に増えている様子はない。鳥に種が運ばれて増える様子もない。「共生の森」のザクロは、残土に混じってやってきた枝などから大きくなったのでしょうか。

見かけた植物・生き物



ガガイモ



アキノゲシ



ニラ



オトコエシ



オランダハッカ

オヒゲシバ

ハマエノコ



ノウゼンカズラ

キミガヨラン

オオマツヨイグサ



ヒナタイノコス子にとまるイチモンジセセリ



チャバナセセリ



オニゲルミに大きな幼虫が13匹もモモズメの幼虫？



シナガワハギにとまるウラナミシジミ (2年目)



シオカラトンボ



アオモンイトトンボ



ウスバキトンボ



オンブバッタ



セスジツユムシ



ツツレサセコオロギ



アレチムラサキ



オシロイバナ

不明の花



これまで見かけなかった花が咲いていた  
アレチハナガサ・ヤナギハナガサ に似る



セイタカアワダチソウ (キク科)



「共生の森」でいま咲き誇っているセイタカアワダチソウ。これほどまとまって繁栄している場所は大阪府内には他にないと思われる。

北アメリカ原産で日本へは明治時代に観賞用に持ち込まれた。セイタカアワダチソウは、周囲の植物の生育を阻害する物質を出す。このことから一時期、大阪府内でもセイタカアワダチソウしか生えていない場所がたくさんあった。そんな時代に、ブタクサなどの花粉症の原因となる花と開花時期がかさなることから、よく目立つセイタカアワダチソウが喘息や、花粉症の元凶とされた。花粉が虫に運ばれるセイタカアワダチソウ。現在では、冤罪であったとされるが、一度つけられたレッテルはなかなか消えない。

観賞用として 日本にやって来た花の悲しい現実。

見かけた植物・生き物



ノイバラ



タチバナモドキ



カナムグラ



フウセンカズラ



ナワシログミ



ランタナ

コミミスク



今年もコミミスクがやってきた。冬も近い。



シジュウカラ



キビタキ △



ジョウビタキ



ムクドリ



チャバネセセリ



キチョウ



モンキチョウ



コセンダングサ・ヤマトシジミ



アオスジアゲハ



オオハナアブ



アキアカネ



トノサマバッタ



ツユムシ

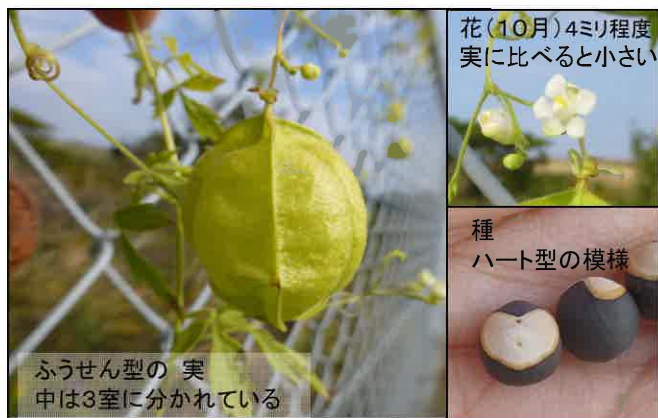


オニグルミ



ザクロ

フウセンカズラ (ムクロジ科)



「共生の森」の道沿いのフェンスにフウセンカズラがからまっていた。

フウセンカズラはアメリカ大陸原産で日本へは観賞用に持ち込まれたといわれる。最近では壁面緑化や緑のカーテンとしても利用されるが、葉が小さくカーテンと呼ぶには少しさびしい感じもする。丸いみどりのふうせんは指でつぶすとポンと音がして破裂する。

ツル系のフウセンカズラは大阪の街でたまに見かける同じムクロジ科のムクロジやモクゲンジの木とは似ても似つかぬ姿をしているが、種が硬いところは似ている。ひとつのふうせんには3つの種が入っていて、どの種にも白色のハート形の模様がついている。

茂りすぎない葉、ほのぼのとした感じをかもし出すふうせん状の実、中から出てくるハートの種と人に好かれる要素を持ち合わせた植物。

見かけた植物・生き物



イヌビワ

ニラ



マサキ

アオギリ



ミカン

ビワ

モズのハヤニエ



今年もいろいろと刺されています。「共生の森」では、棲んでいる生き物の環境から他の場所に比べて昆虫の割合が高いと思われる。ハヤニエにはいろいろな説がありますが、少し日にちをおいて見に行くと、たいがい無くなっていることから、体液を乾燥させるために干しているようにも見える。



ウラナミシジミ

モンキチョウ



モンシロチョウ

ヤマトシジミ



アキアカネ

コアオハナムグリ

ベニシジミ

ナフシログミ

アメリカイヌホオズキ

ナヨクサフジ



ゴマダラチョウ幼虫  
「共生の森」に定着して2年目のゴマダラチョウ。  
エノキの葉に幼虫がいた。

ナンテン (メギ科)



「ナンテン」。「難を転じる」につながるということで縁起のいい木とされ庭や鬼門に植えられたりする。

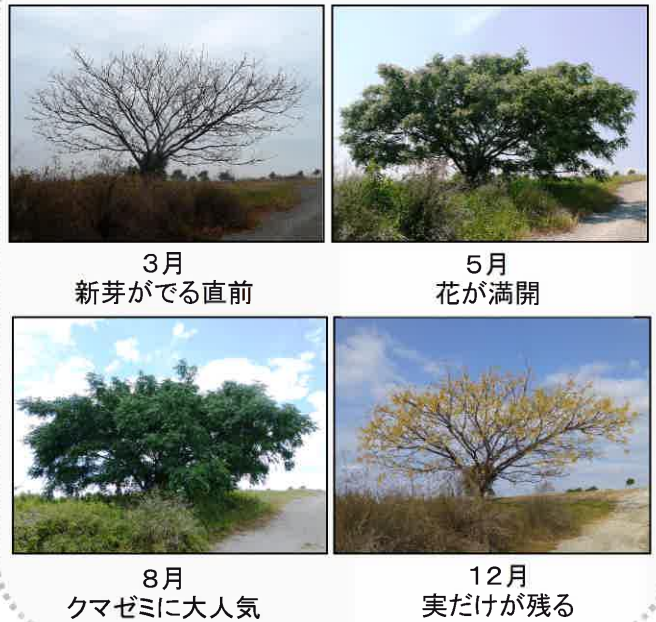
実は咳止めなどの効果があることが知られ、葉は防腐作用があることから、魚料理などに添えられる。

葉は一見、小さな葉に見えるが、枝のように分岐したひとつのかたまりで1枚の葉を構成している。写真の1枚の葉には小さな葉が220枚ほどもついている。同じような特徴の葉を持つ木で、大阪で他によく見かけるのは、センダンとタラノキ。

普段見かけるナンテンの木は大きくても直径1センチ、高さ2m程度のものしかないが、年月をかければナンテンも大きくなるよう。金閣寺には茶室の床柱として使われている有名な南天の柱がある。

「共生の森」に生えているナンテンは、鳥に運ばれたものか植えられたものかは不明。

センダンの一年



ゴミムシの仲間 ハヤニエ スズメガの幼虫



ハゼノキ コナラ

見かけた植物・生き物



キミガヨラン タチバナモドキ(ピラカンサ)



ヘクソカズラ トウネズミモチ



ホトケノザ ナヨクサフジ

「はじまりの森」の様子 (平成19年11月植栽)



1㎡当たり2~3本の苗木を密植

海側の木は潮風の影響から枯死してしまい木がない箇所が見られる。木の高さは1.5m程度と小ぶり。

山側の木は直接潮風を受けないから成長がよく樹高は3m近くに達している。木が枯死して抜けている箇所はない。

「共生の森」では植栽方法の省力化をめざし密植や、サークル植えなど植栽方法の実験を行っている。ことと同じような密植の箇所は、苗木の本数は多くなるが、下刈りは3回程度で林になっている。